



no.1

〈刊行にあたって〉

サークルくれよんは、毎週月曜日と毎月第二土曜日に開かれています。主に心身に弱さ、遅れ、問題をかかえている子どもをもつお父さん、お母さんが集い、おいしいコーヒーとケーキをいただきながら、園長先生とコスモスの室長を囲んで勉強会をしたり、悩みを共有したりしてのんびりとした時間を過ごしています。勉強会というと少し難しく聞こえますが、育児のちょっとした疑問、改まって聞くには恥ずかしいような内容でも何でも話せるような和やかな雰囲気です。

私自身、同じような悩みを持つお母さん達と知り合うことができ“くれよん”に参加することで心の安定が保たれている気がします。

先生方との話では、我々父母からの質問への具体的返答もありますが、それ以上に先生方の知識と経験がギュッとつまった子どもへの関りのヒントが沢山ちりばめられていて、今回はどんな話が聞けるだろうと毎回ワクワクしています。そんな素晴らしい内容を、何とか皆さんへお伝えできないものかと思いはじめました。心身に弱さ、遅れ、問題のあるなしに関らず、今の子供達・親達への大切なメッセージが話の中のふんだんに盛り込まれていて、子育てに関わる全ての方々へ届けたいという一心で刊行することを決心した次第です。

〈発達支援センターコスモスに出会って〉

私の息子は今、3歳になります。発達支援センター「コスモス」でお世話になって4ヶ月が過ぎました。入園当初の息子の様子は…言葉なく、指さもない状態。目を合わせず名前を呼んでも振り向かない、人には興味を持たず、まねはしない。外に出せば糸の切れた凧のようにどこにでも行ってしまふ。明らかに同年齢の子と比べて違って見えました。

保健センターでの2歳半健診で思い切って保健師に相談してみました。しかし3歳半でないと診断はできないと言われ気になるのなら親が動くしかないとのことでした。判断のつかないグレーゾーンの状態。友人に相談してもあいまいな返答(他人の子を面と向かっておかしい!!なんていう人はいないですよね…)。主人に相談しても、祖母に相談しても、男の子はこんなもの…という返事。時には良い方にとらえ、時には自閉症なんだと決め込み、落ち込み、悩んでいました。後になってわかったのですが、やはり母の直感は外れないということです。

そんな息子が4ヶ月をコスモスで過ごし、また、隣接する保育園の園児と接することで少しずつですが言葉が出てきたのです。先生に「〇〇くん」と呼ばれて、手を挙げ返事ができるようになったのです。目がイキイキとして輝きがあり、息子の心に光が差しこんだ、本当の意味で目が見えるようになったのだと実感できる毎日です。5歳になる娘と一緒に遊ぶ姿に感動で涙が止まりませんでした。

思い返せば4ヶ月前、保育園の育児相談で門をたたいた時は、とにかく息子の病名を言ってほしくてたまりませんでした。そこからでないと前に進めない心境でした。園長先生とコスモスの室長との面談で沢山の話を聞いていただきました。子供のことだけでなく、私をとりまく環境の全てについて…。沢山、沢山話を聞いていただいているうちに、子供の問題以上に私自身が混乱し、育児を一人でかかえすぎ、ストレスをかかえて育児をしていることがはっきりとわかりました。子供は本当に敏感です。そういった諸々のストレスを私から受けていたのです。私が変わらなければ子供も変わらないのではないか、まずは私から…という気持ちになりました。

園長先生から3つのことを実践するように言われました。

- 生活リズムをつけること
→朝6時起床、夜8時就寝(生活リズムの大切さは相馬先生の著書により後程改めて納得)
- TV、ゲームは一切禁止!! 甘いおやつもなるべく控える
- いらないいなばあ や追いかけてごっこをして徹底的に遊ぶこと

そして話の最後に今の息子の状態が2年をかけてこうなったのだから、倍の年数、つまり4~5歳位まで治るのにはかかるのだと思って、決して焦らないこと。ただし家族の関り次第で1年でおいつくかもしれないし、もっとかかるかもしれないと付け加えられました。

その日から、我が家の生活改善プロジェクトが母の強行で始まりました。私には息子の他に2つ違いの娘

がいます。その娘も主人をも巻き込んで取り組みました。やるからには徹底的にやろうと決心し、主人とも何度となく衝突しましたが、その都度話し合い、ついには主人も園長先生の下へ話を聞きに行ってくれて、納得の上で現在も取り組んでいます。

息子だけでなく、娘もずいぶん変わりました。人の話を聞けるようになり落ち着いていられるようになりました。息子と娘の変わりぶりは、私だけでなく主人も祖母も驚いています。以前は毎日不安でしたが今は子供が心から可愛いと思えるようになり、家庭内も明るくなった気がします。

思うに、今、子供たちがキレやすい、コミュニケーションがとれない、落ち着きがない、人の話を聞けない、我慢ができないetc・・・という子供が増えている気がします。情緒面での弱さをかかえた子供が実は沢山いるのではないのでしょうか。そういった行動を「個性」や身体的な弱さとして片付けてしまっている親御さんも多いのではないかと思います。

親が変われば子供も必ず変わります。そして治る、変わると子供を信じ、接してくれているコスモスの指導員、保育園の先生方、園長先生と共に息子の成長を見守っていきたいと思っています。

♪こんなお話聞きました♪

〈イジメについて〉

誰しも、わが子がイジメたりイジメられたりするのには避けたいと思いますよね。園内の様子を見ていると“一緒に遊ぼう”“ダメ、遊ばない！！”“かして”“かさない”という光景がよく見られます。怒る子、泣く子、叩く子、様々です。親としては、皆と仲良く遊べる子だと正直うれいところがありますよね。

園長先生に聞いてみましたら、仲間外れ等の事は、就学前に大いに経験すべき事だそうです。仲間に入れなかった時の寂しさ、友達と仲良く遊べた楽しさ。ケンカしたときのやさしさや怒りも大いに結構！！そうやって沢山の感情や気持ちのやりとりを遊びの中で経験していくことで、相手を思いやる気持ちが育まれていくでしょうね。

ところが、現代はケンカはご法度！！みんな仲良くが主流。仲良くできる子＝良い子と子供たちをおさえつけるあまり、子供達は本来もっている感情をはきだせず、小学校へと入学していってしまうのでしょうか。イジメの悪質化や時には相手を死へと追いつめてしまう程の仲間外れ。無関係とは言えない気がします。

当初、育児に悩んで育児相談に伺った際、主任先生が私の話を聞いていて、こんなことを言ってくれました。「負の感情の何がいけないのでしょうかね・・・」私も多くの親同様、良い子になってほしい(周りに良い子だとほめられたい)という気持ちが強く、大切な怒哀の感情を子供に押しさえさせていたと思います。今でも忘れられない一言です。「今日、仲間に入れてもらえなかった～」と泣くわが子の涙に、(よしよし育ててる♪)と少し余裕をもって接することができる自分になることができました。

※文章そのまま載せてあります。あくまでもくれよんに参加したお母さんが感じたままの内容だということをご理解・ご了承ください※